

事務事業マネジメントシート(平成24年度実績と平成25年度計画)

平成26年 1月21日更新

事務事業名		子どもの読書活動推進事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input checked="" type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	教育委員会事務局	課長名	上原 哲也
	施策	19	子どもを見守り、育てる地域づくり			所属課	生涯学習課	担当者名	緒方 初美
	基本事業	58	地域における子育て支援			所属班	図書館班	(内線)	1540
予算科目		会計一般	款 10	項 5	目 8	事業連番 10600	法根拠	成果優先度評価結果 : ⑧ コスト削減優先度評価結果 : ⑥	
終了、開始年度		<input type="checkbox"/> 24年度で終了 <input type="checkbox"/> 24年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	子どもの読書活動推進法が平成13年12月に制定され、各自治体での読書活動の推進が義務づけられた。 * 24年度予算から紙芝居実施事業、春の夜の図書館読書探検隊、夏休みスペシャルおはなし会、親子ふれあい講座、お父さんお母さんのための読み聞かせ塾、あかちゃんのためのおはなし会、あかちゃん講座等の事業を統合した。 * 24年度予算から事業名を「子どもの読書活動推進講座実施事業」から「子どもの読書活動推進事業」に変更した。 * 合志市子どもの読書活動推進計画策定から、5年が経過するので、計画の見直しとそれに伴い、市内小中学生および市内のひのくに高等支援学校の児童・生徒と市内幼・保、小中学校、高等支援学校の保護者に、読書に関するアンケートを行った。
(開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	
【業務の流れ】	講師依頼・参加者募集のチラシ作成及び配布・申込受付・資料作成・会場設営・講座当日の進行・結果報告・謝金支払事務
【主な予算費目】	
【意見や要望】	事業対象者から大変評価を得て、今後、事業対象者範囲の拡大が望まれている。
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標	新規・拡充区分
①手段(主な活動)24年度実績(24年度に行った主な活動)(DO)	25年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
0歳児から小中学生、家庭、学校、幼稚園、保育園関係者へ読書講座やおはなし会を3回開催した。参加者165人	24年度同様に講師を依頼して3回の講座を計画する。 * 24年度予算から春の夜の図書館読書探検隊、紙芝居事業、親子でふれあう講座の実施、地域の子どものボランティアによる夏休みのスペシャルおはなし会を統合した。
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 予算の主な増減の理由
→ア:開催回数	回 マットクリーニングが隔年のため役務費の減
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等	②対象指標(対象の大きさを表す指標)
合志市内の乳幼児から小中学生・家庭、学校・幼稚園・保育園関係者	(単位) 人
→ア:PTA数(幼・小・中・保育園)	→イ:
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)
乳幼児からすべての大人が、子どもにとっての「読み聞かせ」や「手遊び」などの意義を学び、積極的に子どもの豊かな心を育むようにする。子どもが自発的に読書に取り組みたり、お話しの世界に触れることにより読書への興味・関心を高める。	(単位) 人
→ア:講座参加者数	→イ:
*③成果指標設定の理由と25年度目標値設定の根拠	
・講座参加者数より、合志市内在住の子どもや保護者等が、豊かな言葉や感性を磨くことの大切さや、読書の意義について学ぶ機会を得たか把握するため。 ・前年度より多くの参加が望まれるため。	
総トータルコスト全体計画 ~ 年度	
0	

(2)各指標・総事業費の推移		単位	22年度実績(決算)	23年度実績(決算)	24年度目標(当初予算)	24年度実績(決算)	25年度目標(当初予算)	26年度予定	27年度見込	28年度見込	
①活動指標	ア	回	3	3	7	7	7	7	7	7	
②対象指標	ア	人	7,434	0	7,425	7,524	7,425	7,425	7,425	7,425	
③成果指標	ア	人	240	165	150	446	150	150	150	150	
投資入費量	財源内訳	国庫支出金	千円		13	49					
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
	人件費	一般財源	千円	30	17	162	154	199	199	199	199
		(A)事業費計	千円	30	30	211	154	199	199	199	199
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	66	61	66	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	66	61	66	0	0	0
		正規職員従事人数	人	3	3	3	5	3	3	3	3
延べ業務時間	時間	34	70	30	640	30	30	30	30		
(B)人件費計	千円	140	282	121	2,605	121	121	121	121		
トータルコスト(A)+(B)	千円	170	312	332	2,759	320	320	320	320		

事務事業名	子どもの読書活動推進事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	--------------	-----	----------	-----	-------

2 評価の部（SEE）

*原則は24年度の後評価、ただし複数年度事業は24年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①24年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した 講師の知名度に加え、0.1歳児をもつ親の「読み聞かせ」に対する意識も向上している。	<input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】
	②25年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 ブックスタート事業との相乗効果もあり、事業対象者の「子ども時代の読書の意義」についての関心が高まっている。	<input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 時代の要求を先駆けて捉えた内容の事業であるので、反響は大変よかった。・幼保小中学校のPTAとの連携により事業を実施したのは、図書館と学校・家庭をつなぐ意味で意義があった。 ・今後は、対象範囲を広げより参加しやすい状況を作る必要がある。	<input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある⇒（具体的な手段、事務事業） <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似の目的（対象と意図）を持つ事業が他にない。	<input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 講座はボランティア養成にもつながる内容であり、費用対効果の点でも効率的である。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】	<input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 必要経費は講師料であるが、魅力ある講座内容と集客率を考えると、講師の知名度も肝心の要因である。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 図書館法により無料の原則に則って運営している。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 企画・広報・会場準備等は図書館で行っているが、小・中学校PTA、幼・保育園へ参加動員を依頼しており事業のやり方や手段は適正である。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

目標値を大きく上回る参加者があり、今後も継続して行きたい。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善（有効性改善） <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善（効率性改善） <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善（公平性改善） <input type="checkbox"/> 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持																					
	低下																					
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策 子どもの読書推進に関してのボランティアの参加が多くなっているため、おはなしや読み聞かせのボランティアの養成をやっていく必要がある。また、事業を継続して行くためにも若い世代の参加を募っていく。																						